

令和元年度 東京情報大学総合情報研究所プロジェクト研究
研究実績報告書

1. 研究課題名

中学生の職業体験における大学の研究室訪問 ～千葉市教育委員会と連携で行うキャリア教育の構築～

2. 研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	原田 恵理子	総合情報学部 総合情報学科・准教授
研究分担者	田邊 昭雄	総合情報学部 総合情報学科・教授
	吉武 幸恵	看護学部 看護学科・講師
	鶴岡 克彦	千葉市教育委員会
	豊川 ますみ	千葉市教育委員会

3. 連携先団体等

団体名	担当部署
千葉市教育委員会	指導課

4. 研究期間

2019年度～2023年度（5年計画の1年目）

5. 研究の目的

職場体験は、時代の変化を理解した職業の創造と選択、キャリア発達の形成を重視した内容が重要になる。しかし、従来の職場体験は、体験先の偏り、体験内容の課題等が指摘され、新たな職場体験の検討が急務である。そこで本研究は、職場体験を包括した職業体験として、キャリア教育の視点からキャリアプランニングに焦点化した職場体験を実施し、その効果の検証を通してプログラム開発に向けた知見を得ることを目的とする。

6. 研究報告

方法：千葉市内の中学校1校を対象に事前指導と職場体験を実施し、その効果を検証した。

(1) 事前指導

職場体験参加前に、ソーシャルスキルおよび基本的なマナーを身につける講座を5月15日6時間目（14:30～15:15）に体育館で実施した。事前指導は、①導入、②コミュニケーションの基本、③接遇、④まとめで構成された。参加者は、83名（男子47名、女子36

名)であった。

(2) 職場体験

①対象者・日時：大学研究室訪問に6名(男子2名,女子4名)が参加した。5月29・30・31日(1~4限,9:00~15:15)の3日間で、東京情報大学各研究室および遠隔看護実践研究センターで行われた。

②職場体験の内容：「キャリアプランニング」を重視し、職業や新たな視点から仕事をとらえるといった内容で、大学教員7名が各講座を担当し、1講座90分で行われた。

1日目：1限は、キャリアプランニングに焦点を当てた職場体験の意義と目標を共有した「オリエンテーション」、2限は「情報が社会を変え、新たな職業を作り出している」ことから10年後の社会や職業について考えた。3限は、「マーケティングの知識を応用して新商品を考える」ディスカッションが行われ、4限は、1日の学びを確認・共有する「まとめ」を行った。

2日目：1限は、私たちの生活の中からプログラムが使われる場面や「プログラミングを仕事にする人達」を知り、2限は、様々な人が携わることで成り立つ「映像の仕事」をCMから考えた。3限は、パラパラ漫画からCGを使った作品作りを通して「アニメーションの世界」を体験し、4限は学びを振り返る「まとめ」を行った。

3日目：1限は、今後重視され残る仕事とされている「AIエンジニアの仕事」を学び、2・3限では、情報が「未来の医療と看護師の役割」をどう変えるかについて遠隔看護の視点から体験を踏まえて考え、意見を交換した。4限は、3日目の振り返りと3日間の職場体験の目標達成度を確認し、職場体験の気づきを今後にどのように活かすかについて生徒全員が発表した。

③質問紙調査：職場体験活動の前後に実施された。中学生用キャリア意識尺度(新見・前田,2008)、基礎的・汎用的能力尺度(文部科学省,2011)、「立てた目標がどのくらい達成できたか」、「将来のためにこれからできる具体的なことは何か」という自由記述であった。なお、本調査は、東京情報大学人を対象とする実験・調査等に関する倫理委員会の承認(人倫委第2019-001号)を受けて実施された。

結果と考察：

本研究は、キャリアプランニング能力の育成に焦点化した新たな職場体験のプログラムの開発および効果の検討により、本研究に向けた知見を得ることが目的であった。その結果、生徒のキャリア意識における「情報活用能力」、「意思決定力」、基礎的・汎用的能力における「キャリアプランニング能力」の有意な上昇とキャリアプランニング能力における「意義と役割」、「多様性理解」、「将来設計」、「選択」の平均得点の上昇と各生徒の得点上昇あるいは維持といった結果を得た。キャリアプランニングの理解に基づき、日々の学校生活や学習の重要性を再認識していた。

以上を踏まえ、キャリアプランニング能力を育成する職業教育としての職場体験は、目

的やねらいについて事前に関係者で密な連携をすること、キャリアプランニングが求められる背景や意義を説明してから目標設定を各自がきちんと持って職場体験に臨めるようガイダンスを実施すること、目標達成の確認と学びを日常生活に結び付けてリフレクションを行うことが重要になってくるといえる。これらについて様々な職場体験先に行く前に、生徒がおさえ職場体験に参加することが生徒のキャリアプランニング能力の育成に重要になるという示唆を得た。一方、実践群を増やし比較群を設けた効果検証、生徒の個別特性への配慮と学校との事前の情報共有といった連携による支援の在り方や事後のフォローアップ、大学における職場体験前後の教育と指導の関連性やソーシャルスキルトレーニングの組み合わせ、キャリアプランニング教育のプログラムの学びの定着にむけた校内体制支援の在り方と教員研修の在り方についてが今後の課題である。

7. 成果の公表

原田恵理子・田邊昭雄・吉武幸恵 (2019). 中学生のキャリア発達を促す職場体験活動ーキャリアプランニング能力に焦点化したプログラム開発ー 日本学校心理士会 2019 年度大会 pp32-34.

東京情報大学・千葉市教育委員会 (2020). キャリアプランニング能力に焦点化した中学生の職場体験学習のプログラム開発～教育委員会と大学で連携したキャリア教育・職業教育～令和元年度東京情報大学総合情報研究所プロジェクト研究 研究成果報告 未公開

8. 総評

千葉市教育委員会 学校教育部教育指導課 豊川ますみ主任指導主事

中学生の職場体験学習が実施されるようになって十数年が経過しました。当初は職場体験先を確保することが課題でしたが、体験先が定着してきた次の課題は、キャリア教育としてより一層充実した学習にすることでした。今回キャリアプランニング能力の育成に焦点化した職場体験プログラムの開発を研究の柱にしたことで、将来的には千葉市の全中学校でキャリアプランニング能力の育成を中心とした職場体験学習の見通しが持てました。今年度の予備研究の成果を踏まえ、課題や今後の研究の方向性が明確になりましたので、千葉市としても更に連携を深めていきたいと考えます。